語り継ぐ「あの時」

特集　新潟地震

篠田市長に聞く 44年前の体験

「命を守る力」が大切

一九六四年六月十六日午後一時一分五十二秒。粟島付近の海底を震源とするマグニチュード7・5の地震が県内を襲った。五日前に開幕した新潟国体の余韻もさめやらぬ新潟市は、大きな被害に見舞われた。昭和大橋が無残に落ち、県営アパートが横倒しとなった。道路は裂け、泥水が噴き出し、炎上した石油タンクからの黒煙が空を覆った。あれから四十四年目に当たる今年、中国・四川大地震が起き、地震の恐ろしさをあらためて突きつけている。新潟地震を高校生で体験した篠田昭新潟市長に「その時」を語ってもらい、災害に強いまちづくりに向けた取り組みを聞いた。

―四川大地震が途方もない被害を生んでいます。新潟地震の記憶を呼び起こしたのでは。

「犠牲になられた方々のご冥福をお祈りします。被災者にお見舞い申し上げ、この困難を一日も早く克服されることを心から願っています」

近所の助け合い 自然に

「新潟地震の時は、高校二年生で、ちょうど昼休み、学校のグラウンドでソフトボールをしていました。そこに、立っていられないほどの猛烈な揺れが襲いました。地面に伏せるような格好で耐えていました。間もなく北東の方角にキノコ雲が上がりました」

「原爆が落ちたという流言飛語の一方で、昭和大橋は落ちたが万代橋は大丈夫など、正しい情報も伝わりました。家は新潟駅に近い東新潟にありましたから、迷わず万代橋に向かいました。正しい情報がいかに大事かを当たり前というか、自然に行われていました」

―新潟地震の時は学校などが避難者であふれました。

「高校のあった関屋下川原町付近は被害が少なかった。ところが西堀、古町と進むにつれ、大変な状況が分かってきました。万代橋を渡り、家に着いたのは二時間後くらいだったでしょうか。家に入ったら、強い余震が来て飛び出しました。その時の方が（本震より）怖かったですね」

学校耐震化 早急に完了

―水や食料はどうだったのでしょう。

「家が旅館業をしていたので食料はありました。困ったのは飲料水です。給水車が来て、何回も並んで水をもらい、家に運んだのを覚えています。近所の助け合いも、当たり前というか、自然に行われていました」

―新潟地震の時は学校などが避難者であふれました。

「高校のあった関屋下川原町付近は被害が少なかった。ところが西堀、古町と進むにつれ、大変な状況が分かってきました。万代橋を渡り、家に着いたのは二時間後くらいだったでしょうか。家に入ったら、強い余震が来て飛び出しました。その時の方が（本震より）怖かったですね」

―水や食料はどうだったのでしょう。

「家が旅館業をしていたので食料はありました。困ったのは飲料水です。給水車が来て、何回も並んで水をもらい、家に運んだのを覚えています。近所の助け合いも、当たり前というか、自然に行われていました」

―新潟地震の時は学校などが避難者であふれました。

「高校のあった関屋下川原町付近は被害が少なかったから、迷わず万代橋に向かいました。正しい情報がいかに大事かを